

# 石川県教育支援センター

## やすらぎ加賀通信

第152号

2024/3/15

かもまるくん  
ですっ。



加賀市標章

気象庁は、この冬（12月～2月）は1898年の統計開始以来、2020年シーズンに次ぐ2番目の暖かさだったと発表しましたが、3月に入り、まだまだ寒い日が続いています。年度末の学校行事がひと段落した頃には、春の訪れを感じられるようになるのでしょうか。

能登地震で被災し、避難生活を送っている人たちのためにも、一日も早く穏やかで暖かい気候になればと願っています。



### 相 談 状 況

	入室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
4月	5	12	1	18	0
5月	11	0	1	12	0
6月	10	11	3	24	0
7月	11	8	3	22	0
8月	1	5	0	6	0
9月	12	8	2	22	0
10月	20	3	7	30	0
11月	16	6	3	25	0
12月	3	8	1	12	0
1月	5	4	2	11	0
2月	18	2	1	21	1
3月	3	0	0	3	1
合計	115	67	24	206	1
昨年度	112	96	6	214	0

（2024年3月8日現在）

## 加賀フレンドシップ反省会

**去る2月16日（金）、加賀聖城高校の校長室において、今年度の活動を振り返る反省会を行いました。**

平成 17 年度より金沢大学原田克巳准教授のお世話で、大学生にこの事業に参加してもらい大きな成果を上げています。今年度は3名が活動を実施しました。

### （活動を終えての学生の感想）

#### Aさん

児童とのたわいのない話からその児童の家族のことや、性格、好きなことが垣間見えて、教師になった際も些細な会話を大切にしたいと思いました。素敵な先生方と児童たちが集まっている学校で充実した活動をさせていただきました。私はボランティアとして行ったけれど、私の方が学ばせていただくことが多く、良い経験になりました。

#### Bさん

児童たち一人一人にどのようにコミュニケーションを図るのが適切であるのかを考える経験を積むことができました。月に1度の特別活動にも2回参加することができました。調理実習やもちつきを通して、地域の方々との連携も教育にとって不可欠なものであると実感しました。明るい児童たちや優しい指導員の方々に私も癒され、教育に携わりたい気持ちが強くなりました。

#### Cさん

児童が学校生活を送るうえで、障害となる苦手なものが1つでもあると、他のことにまで影響し、嫌なことが増えてしまうのだろうと、活動を通して感じました。支援室での先生方の負担も感じたので、また機会があればこのようなボランティアに参加し、少しでもお手伝いできたらいいと感じています。

### （学校側からの意見や感想）

- ・子供たちにとっても年代の近い人とのふれあいで話しやすく、学習でも普段の指導員との学習とは違うことで、一緒に学習を進めていた。
- ・子どもたちにとっても、またフレンドシップの学生にとっても有益であると思われるので、今後も継続してほしいです。
- ・学習支援に入ってもらい、生徒が集中して学習に取り組んでいた。
- ・こちらの予定に合わせて活動に参加していただいたので、子供たちとかかわる時間を多く持つことができた。
- ・年齢が近く親しみやすい。気軽に話せる存在なので安心して学校に登校し、おしゃべりできたりしていた。



- ・休み時間に楽しく話をする姿が見られ、児童がリラックスできた。
- ・大変熱心に児童にかかわってもらえ、ありがたかった。話をすることによって安心して学校生活を送れた児童もいたように思う。
- ・フレンドシップの目的に対して応えられたかどうかという点で心残りではありますが、来ていただいたことで支援が充実し大変良かった。学生にとってもせっかくの機会なので参観の視点や一日のふりかえり（学び）など話もさせていただいた。学生の方にとっても一つでも学びがある取り組みになっていれば幸いです。またよろしくお願いします。